

子どもが選ぶ 学校が変わる

本校は、今年度から1コマ40分午前5時間授業、20分の学校裁量の時間などの新しい教育課程のもと、日々の教育活動に取り組んでいます。4月当初は慣れない日課に児童も教師も戸惑っていましたが、現在は慣れ、新教育課程のよさが見えてきています。中でも学校裁量の時間のうち、活動を児童に委ねる「私の時間」は、児童にとって待ち遠しい時間となっています。

週1～2回ある「私の時間」は、取り組む内容や活動場所などを児童自身が決めます。その活動は多岐にわたります。1分間紙飛行機を飛ばそうと取り組む子。ボイスパーカッションの練習をする子。失敗を重ねながらお菓子作りに取り組む子。野球で内角のボールを打ちたいと素振りをする子。もやしを育てる子。算数の授業でわからなかった問題に取り組む子…。ある子は夢の実現のために、ある子は授業で十分できなかったところを補うために、その日の自分と対話しながら活動しています。今や「私の時間」は、学校での「楽しみ」の一つであり、この時間があるから登校するという児童もいます。

一方で、教師は迷いの連続です。教師がかかわることで児童の追求を止めてしまわないか。伴走者としてどうかかわればいいのか。児童の活動は学びにつながっているか。そもそも学びとは何なのか。半年経った今も、教師一人一人が自分自身に問いかけています。加えて、「私の時間」で見られる主体的に取り組む姿を、授業でも見られるようにすることも課題の一つです。先日の参観日には保護者の方にも見ていただきました。保護者アンケートにはたくさんのご意見が書かれており、関心が高く、肯定的に受け止めてくれています。

子どもが選ぶことで、教師に、保護者に変化があり、学校が変わろうとしています。研究会当日は、児童の姿、伴走者としての教師のあり方、新教育課程の可能性やよりよいあり方等、参会の先生方のお話を伺い、ともに考え合えればと願っています。



共同研究者 伏木先生から

小学校の標準単位時間45分を40分に短縮し、削った時間で生み出した「私の時間」(20分)を通して、本校の先生たちは子ども一人一人の興味・関心と学びの本質を捉える努力を重ねている。今後は更に「私の時間」が充実し、教育課程全体が「学ぶ側の論理」で再編成されることを期待したい。



～日 程～

- ① 受付 13:05～13:20
- ② 「私の時間」公開 13:25～13:45
- ③ 授業公開 13:50～14:30
- ④ 開会行事 14:45～14:50
- ⑤ 研究概要発表 14:50～15:00
- ⑥ トークセッション 15:05～16:35
- ⑦ 閉会行事 16:40～16:45